



平成23年11月15日

旧緊急時避難準備区域(南相馬市、田村市、川内村、広野町、
楢葉町)の復旧を支援するための放射線モニタリング
アクションプランの測定結果について(11月15日公表分)

標記の件について、内閣府原子力被災者生活支援チーム、文部科学省及び環境省において、9～10月に実施した一部のモニタリングの測定結果をとりまとめましたので、別添のとおりお知らせします。

(総論及び面的なモニタリングについて)

<担当> 文部科学省 原子力災害対策支援本部

堀田(ほりた)、奥(おく) (内線4604、4605)

電話: 03-5253-4111 (代表)

03-5510-1076 (直通)

(復旧計画との関係について)

<担当> 内閣府 原子力被災者生活支援チーム

布田(ぬのだ)

電話: 03-3501-1528 (直通)

(河川・水源地のモニタリングについて)

<担当> 環境省 水・大気環境局 水環境課

古田(ふるた)、長谷(はせ)

電話: 03-5521-8316 (直通)

旧 緊急時避難準備区域（南相馬市、田村市、川内村、広野町、楡葉町）の
復旧を支援するための放射線モニタリングアクションプランの測定結果について

平成 23 年 11 月 15 日

内閣府原子力被災者生活支援チーム
文部科学省原子力災害対策支援本部
環境省

1. 概要

平成 23 年 9 月 30 日に解除された緊急時避難準備区域 5 市町村（南相馬市、田村市、川内村、広野町、楡葉町）の復旧計画においてモニタリングの充実強化が求められていることなどを踏まえ、当該区域における復旧を支援する一環として、文部科学省、内閣府原子力被災者生活支援チーム、原子力災害現地対策本部、環境省等は、関係する市町村、福島県等と調整の上、9 月より以下のモニタリングを実施しているところです。

- ① 生活圏に着目した走行サーベイ、無人ヘリコプターを用いた面的なモニタリング
- ② 自治体の要望を踏まえたモニタリング
 - ア. 飲用の井戸水等地下水のモニタリング（新規）
 - イ. 河川・水源地のモニタリング（新規）

この度、これらのうち、9～10 月に実施した一部のモニタリングについて、測定結果を取りまとめましたので、公表します。

2. 今回公表する測定結果の概要

2. 1 生活圏に着目した走行サーベイ、無人ヘリコプターを用いた面的なモニタリング

1) 測定概要

7 月の測定結果を補完する観点から、住民の生活圏に着目した生活道路等や里山等について、走行サーベイ及び無人ヘリコプターによる空間線量率の測定。

2) 測定対象

①走行サーベイによる面的なモニタリング

広野町：主要ポイントから離れた集落、生活道路をはじめとするエリアの測定

広野町の要請を踏まえた前回測定エリアのより精緻な測定

楡葉町：生活道路等の生活圏を中心としたエリアの測定

②無人ヘリコプターによる面的なモニタリング

自治体からの要請の高かった里山等の測定

田村市：4 箇所、広野町：2 箇所

3) 測定結果

走行サーベイによるモニタリングの結果、測定したほとんどのエリアで1m高さ及び50cm高さ共に1.0 μ Sv/h未満という結果が得られました。なお、比較的高い空間線量が確認されたエリアは、広野町及び檜葉町共に、付近に住居等のない両脇が林となっている道路であり、測定された1m高さにおける空間線量率の最大値は、広野町で2.0 μ Sv/h、檜葉町で1.8 μ Sv/hでした。

無人ヘリコプターによるモニタリングの結果、測定した箇所のほとんどの地点で1 μ Sv/h未満となっており、1m高さにおける空間線量率は、田村市で0.2~1.4 μ Sv/h、広野町で0.3~1.0 μ Sv/hという結果が得られました。

○市町村別のモニタリング毎の空間線量率の最高値及び最低値

(単位： μ Sv/h)

	測定高さ	田村市	広野町	檜葉町
走行サーベイ	1m高さ		0.1~2.0	0.2~1.8
	50cm高さ		0.1~2.1	0.2~2.0
無人ヘリコプター	1m高さ	0.2~1.4	0.3~1.0	
	50cm高さ	0.2~1.4	0.3~1.0	

※南相馬市における無人ヘリコプターを用いた測定は、11月中に実施予定。

これらの結果を基に、①今回の測定結果を取りまとめた放射線分布マップ及び②7月中に実施した「緊急時避難準備区域の解除に向けた放射線モニタリングアクションプラン」の測定結果(8月9日及び16日公表)と併せて取りまとめた放射線分布マップ※を作成しました。なお、前回のアクションプランと併せて取りまとめたマップでは、同一エリアで測定を行っている場合は、今回のアクションプランの測定結果を表示させています。

※ 今回、前回の測定結果と併せた放射線分布マップを作成するにあたっては、測定日の違いによる空間線量率の減衰について、現在の空間線量率への寄与の大部分をしめる放射性セシウムの減衰に基づいて試算すると概ね4%程度となり、測定計器の有する誤差より小さいことから、測定値の減衰補正は行わず、実際に測定した日の測定結果(空間線量率)をそのまま表示しています。

2. 2 河川・水源地のモニタリング(新規)

1) 調査概要

旧緊急時避難準備区域(南相馬市、川内村、広野町、檜葉町)及びその上流の河川・水源地、並びに当該区域の水源地として使用されている警戒区域内の河川・水源地の水質及び底質における放射性物質等の濃度の測定。

2) 調査地点

南相馬市：真野川；落合橋、真島橋

新田川；高の倉ダム貯水池、木戸内橋、鮭川橋

太田川；横川ダム貯水池、石渡戸橋、上ノ内橋、JR 鉄道橋、益田橋)

川内村：木戸川；西山橋

広野町：浅見川；坊田橋

檜葉町（警戒区域内）：木戸川；木戸ダム、長瀬橋、木戸川橋

その他（飯館村）：真野川；真野ダム、

新田川；岩部ダム貯水池、草野、小宮

3) 調査結果

調査を行った河川・水源地の水質・底質の放射性物質の濃度は以下の通りであった。

<水質>

放射性ヨウ素（ヨウ素 131）：不検出（検出下限値：1Bq/L）

放射性セシウム：セシウム 134 不検出 ～ 10Bq/L（検出下限値：1Bq/L）

セシウム 137 不検出 ～ 12Bq/L（検出下限値：1Bq/L）

※「原子力施設等の防災対策について（原子力安全委員会）」飲食物の摂取制限に関する指標（飲料水）

放射性ヨウ素（ヨウ素 131）：300Bq/kg 以上

放射性セシウム（セシウム 134、セシウム 137 合計）：200Bq/kg 以上

<底質>

放射性ヨウ素（ヨウ素 131）：不検出（検出下限値：30Bq/kg（乾泥））

放射性セシウム：セシウム 134 47 ～ 27,000Bq/kg（乾泥）

セシウム 137 64 ～ 33,000Bq/kg（乾泥）

併せて、水質・底質採取地点近傍の周辺環境を確認するため、河川敷等の土壌の放射性物質の濃度及び空間線量率の測定を実施したところ、結果は以下の通りであった。

<土壌>

放射性ヨウ素（ヨウ素 131）：不検出（検出下限値：30Bq/kg（乾））

放射性セシウム：セシウム 134 210 ～ 9,700Bq/kg（乾）

セシウム 137 230 ～ 11,000Bq/kg（乾）

<空間線量率>

0.19 ～ 10.11 μ Sv/h

4) 河川・水源地別の分析結果（別紙参照）

(構成)

1. 旧 緊急時避難準備区域における放射線分布マップ

1) 旧 緊急時避難準備区域【田村市】における放射線分布マップ (空間線量率)

・ 今回の測定結果を取りまとめた放射線分布マップ

(参考) 前回の測定結果と併せて取りまとめた放射線分布マップ

2) 旧 緊急時避難準備区域【広野町】における放射線分布マップ (空間線量率)

・ 今回の測定結果を取りまとめた放射線分布マップ

(参考) 前回の測定結果と併せて取りまとめた放射線分布マップ

3) 旧 緊急時避難準備区域【檜葉町】における放射線分布マップ (空間線量率)

・ 今回の測定結果を取りまとめた放射線分布マップ

(参考) 前回の測定結果と併せて取りまとめた放射線分布マップ

2. 河川・水源地のモニタリング結果

1) 河川・水源地のモニタリング結果一覧

2) 水系別測定地点マップ

・ 真野川水系測定地点マップ

※真野川 (落合橋、真島橋)、真野ダム、

・ 新田川水系測定地点マップ

※草野、小宮、木戸内橋、鮭川橋、岩部ダム貯水池、高の倉ダム貯水池

・ 太田川水系測定地点マップ

※石渡戸橋、上ノ内橋、益田橋、JR 鉄道橋、横川ダム貯水池

・ 木戸川水系、浅見川水系測定地点マップ

※西山橋、長瀬橋、木戸川橋、坊田橋 (浅見川)、木戸ダム、

(別添参考) 旧緊急時避難準備区域 (南相馬市、田村市、川内村、広野町、檜葉町) の復旧を支援するための放射線モニタリングアクションプランについて (抄)

[平成23年10月3日 内閣府原子力被災者生活支援チーム、文部科学省原子力災害対策支援本部、環境省]